令和4年度 財務レポート

公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学

理事長あいさつ

本学は、2016 年 4 月に地域の若者に高等教育の機会を広く与えるべく公立大学法人となり、2018 年 4 月には、山口県内初の薬学部薬学科を、2023 年 4 月には工学部に数理情報科学科を設置しました。これらを契機に山陽小野田市の落ち着いた教育環境に根づき、自治体や企業からの連携協力をいただきながら、″教員と学生の近さ″、″学生同士そして地域との緊密な繋がり″などの本学の魅力と、地域からの熱いご支援をいただく素晴らしい環境のもとで、学生みずからが有意義な大学生活を実感でき、「本学に入学して本当に良かった」と言っていただける、″山陽小野田スマイルシティーキャンパス″を目指しています。

少子化による就学人口の減少など激化する大学間競争、スマート社会の到来などの非常に複雑な社会構造の急速な変化を伴うなかで、本学に課せられた社会的使命を踏まえ、より一層のプレゼンスを継続的に高めて勝ち残っていくために、2024 年 4 月には工学部に医薬工学科を設置すると共に、大学院に薬学研究科、工学研究科数理情報科学専攻を設置します。

このような状況下においても、法人の安定した経営基盤のもと、創設以来の歴史と伝統を受け継ぎ、工学並びに薬学分野の教育研究を通して人材を育て、地域貢献活動を通して地域と共に発展してまいります。

そのために、教職員が一丸となって戦略的かつ革新的な大学運営に努め、効率的かつ有効な業務遂行を意識した上で、強固な財政基盤の構築を図り、コンプライアンスを徹底することで、本学のステークホルダーである学生、御父母、市民、県民の期待と信頼に応え、選んでいただける地域社会との連携拠点づくりを進めてまいります。

学生たちが素晴らしい出会いを大切にして、実力を持って自らの将来を拓き、世界に大きく羽ばたけるように全力を尽くしますので、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ここに 2022 年度の財務レポートをまとめましたのでご報告致します。

公立大学法人山陽小野田市立
山口東京理科大学
理事長　池北　雅彦

目次

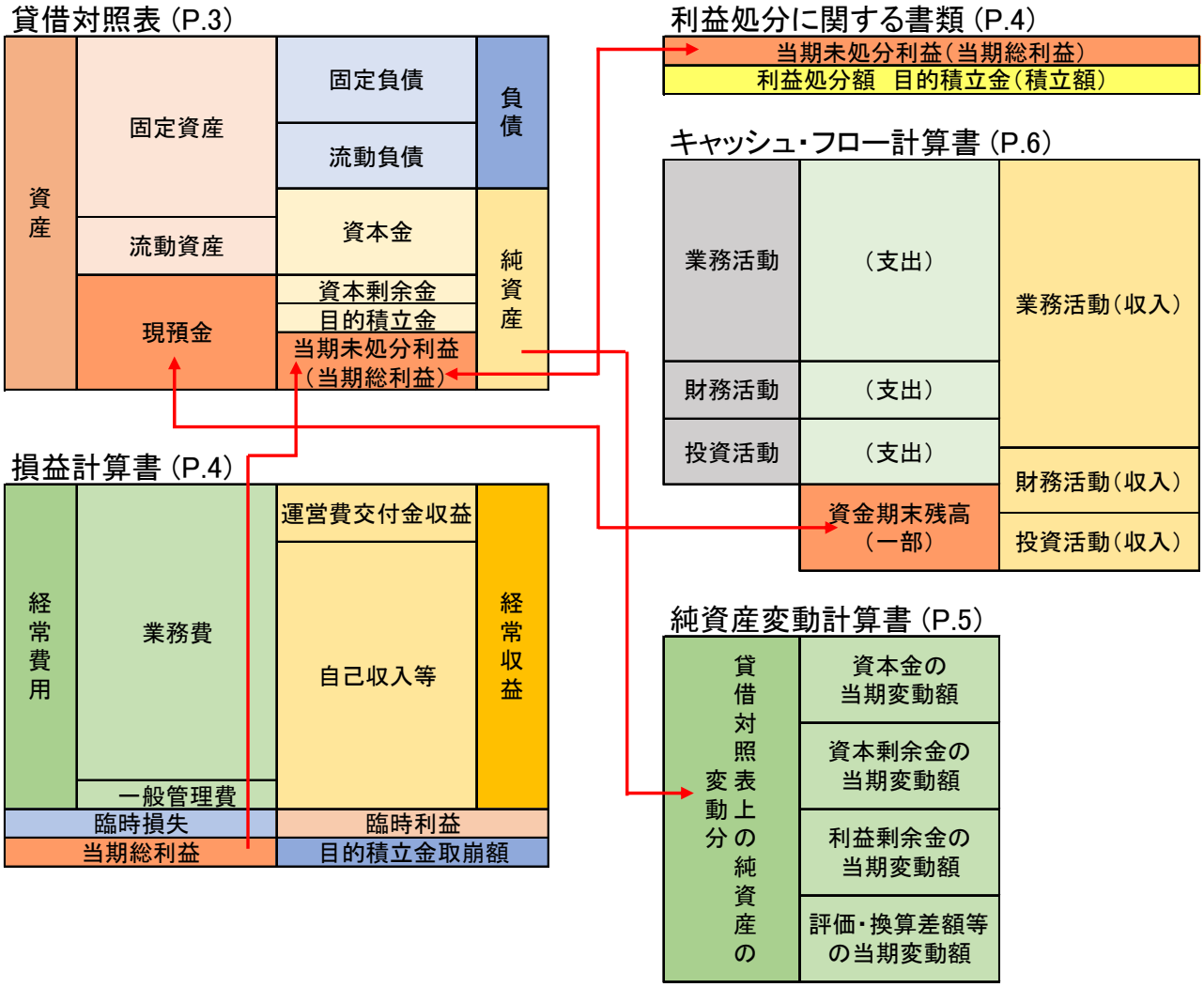
理事長あいさつ ―― 1
決算総括 ―― 2
貸借対照表 ―― 3
損益計算書 ―― 4
純資産変動計算書 ―― 5
キャッシュ・フロー計算書 ―― 6
決算報告書 ―― 7
令和４年度の主な取組み
　教育に関する取組み ―― 8
　研究に関する取組み ―― 10
　地域貢献に関する取組み ―― 12

決算総括

令和４年度決算については、法人全体として 86,025 千円の当期総利益を計上しました。収入については、35 周年記念事業寄附金の寄附額が想定を下回ったものの、補助金収入や受託事業等の外部資金獲得額の増加により、収入合計で当初予算比 7,567 千円の増加となりました。

支出についてはテニスコート・駐車場整備事業の支払時期が一部変更になったことや、人件費が想定を下回ったこと等により、支出合計で当初予算比 96,709 千円の減少となりました。

財務諸表相関図



貸借対照表

貸借対照表は、決算日（令和 5 年 3 月 31 日）時点における資産・負債・純資産を表示した、財政状態を明らかにするための報告書です。貸借対照表の負債・純資産はどのようにして資本を調達したかを表し、資産は調達した資本をどのように使用しているのかを表します。

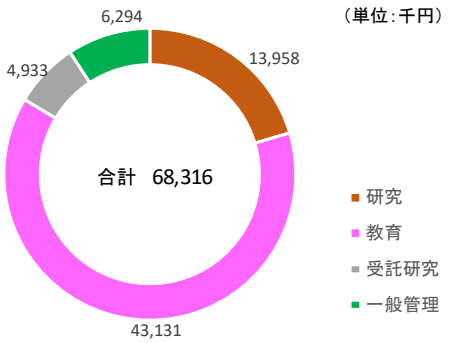
（単位：千円）

区分			令和4年度開始時	令和4年度期末時
資産の部		土地	816,130	816,130
		建物	2,258,208	2,429,433
		構築物	30,679	143,502
		車両運搬具	1,753	927
		工具器具備品	258,993	237,470
		工具器具備品（リース）	36,230	29,941
		図書	322,913	320,411
		建設仮勘定	16,500	79,981
		有形固定資産合計	3,741,406	4,057,797
		ソフトウェア	5,586	15,134
		特許権	495	1,650
		特許権仮勘定	3,053	2,305
		無形固定資産合計	9,134	19,089
		長期前払費用	5,931	5,191
		長期性預金	—	—
		投資その他の資産合計	5,931	5,191
	固定資産合計 ①		3,756,471	4,082,076
	現金及び預金		1,397,187	1,091,054
	未収学生納付金収入		9,588	9,588
	その他未収入金		15,101	87,856
	前払費用		49,243	47,827
	立替金		—	4,946
	流動資産合計 ②		1,471,119	1,241,271
資産合計 ③（①＋②）			5,227,590	5,323,347

区分			令和4年度開始時	令和4年度期末時
負債の部		資産見返負債	737,354	756,998
		長期リース債務	24,370	26,577
	固定負債合計 ④		761,724	783,576
		運営費交付金債務	–	–
		預り補助金等	–	–
		寄附金債務	29,259	45,866
		前受受託研究費等	6,496	7,333
		前受共同研究費	4,859	4,270
		前受受託事業費	–	5,793
		未払金	210,247	218,029
		未払消費税等	3,183	1,144
		リース債務	6,092	8,859
		前受金	6,571	4,405
		預り科学研究費補助金	21,904	14,684
		預り金	21,028	22,328
	流動負債合計 ⑤		309,640	332,712
負債合計 ⑥（④＋⑤）			1,071,364	1,116,288
純資産の部		資本金（地方公共団体出資金）	3,785,842	3,785,842
		資本剰余金	▲ 825,386	▲ 492,841
		利益剰余金	1,195,770	914,059
	純資産合計 ⑦		4,156,226	4,207,059
負債・純資産合計 ⑧（⑥＋⑦）			5,227,590	5,323,347

工具器具備品目的別内訳

（単位：千円）



令和4年度に取得した工具器具備品の目的別の内訳です。
取得価額を表し、減価償却前の金額を記載しています。

損益計算書

（単位：千円）

区分		令和4年度
経常費用	教育経費	550,489
	研究経費	151,326
	教育研究支援経費	76,090
	受託研究費	23,958
	共同研究費	20,218
	受託事業費	4,879
	人件費	1,464,720
	業務費合計	2,291,679
	一般管理費	506,319
	雑損	31
経常費用合計①		2,798,029
経常収益	運営費交付金収益	1,594,483
	授業料収益等	959,143
	受託研究等収益	24,774
	共同研究収益	20,295
	受託事業収益	4,993
	寄附金収益	14,270
	補助金等収益	116,972
	施設費収益	1,448
	資産見返負債戻入	89,683
	財務収益	49
	雑益	57,944
経常収益合計②		2,884,054
経常利益③（②－①）		86,025

臨時利益④	13,074
臨時損失⑤	13,074
当期純利益⑥（③＋④−⑤）	86,025
当期総利益⑦	86,025

損益計算書は、ある一定期間（令和４年４月１日から令和５年３月31日まで）の業務活動の成果を表した報告書です。経営の理念に基づいてサービスを社会に提供し、満足していただいた活動の結果を利益（又は損失）として計算したものです。

人件費内訳

役員人件費　：　38,864千円
教員人件費　：　1,066,487千円
職員人件費　：　359,369千円

授業料収益等内訳

授業料収益　：　792,240千円
入学金収益　：　117,735千円
検定料収益　：　47,729千円
手数料収益　：　1,439千円

地域への経済波及効果

山口東京理科大学が立地することによる
地域への経済波及効果（令和4年度）

	山口県	山陽小野田市
直接効果	31.2 億円	18.3 億円
生産誘発額	25.9 億円	15.0 億円
付加価値誘発	16.0 億円	9.4 億円
総合効果	**73.1 億円**	**42.7 億円**

利益処分に関する書類（要約）

（単位：千円）

当期未処分利益	
当期総利益	86,025

（単位：千円）

利益処分額	
教育研究の質の向上及び施設整備積立金	86,025

地方独立行政法人法第40条第3項により、設立団体（山陽小野田市）の長の承認を受ける必要がある金額です。
経営努力によって得られた利益として、次年度以降に利用可能な積立金となります。

純資産変動計算書

純資産変動計算書は、法人の財政状態と運営状況との関係を表すため、一会計期間に属する法人の全ての純資産の変動を記載するものとなっております。

（単位：千円）

	純資産合計
当期首残高	4,156,226
当期変動額	
Ⅰ　資本金の当期変動額	
出資金の受入	0
出資等に係る不要財産の出資等団体への納付による減資	0
Ⅱ　資本剰余金の当期変動額	
固定資産の取得	490,538
固定資産の除売却	0
減価償却	▲ 157,993
固定資産の減損	0
時の経過による資産除去債務の増加	0
資産除去債務の履行に伴う取り崩し	0
承継資産の使用等	0
出資等に係る不要財産の出資等団体への納付	0
その他の資本剰余金の当期変動額（純額）	0
Ⅲ　利益剰余金（又は繰越欠損金）の当期変動額	
（1）　利益の処分又は損失の処理	
積立金への振替	0
前中期目標期間からの繰越し	0
利益処分（又は損失処理）による取り崩し	0
設立団体等納付金の納付	▲ 50
（2）　その他	
当期純利益（又は当期純損失）	86,025
前中期目標期間繰越積立金取崩額	▲ 367,686
目的積立金取崩額	0
その他の利益剰余金の当期変動額（純額）	0
Ⅳ　評価・換算差額等の当期変動額（純額）	
当期変動額合計	50,834
当期末残高	4,207,059

期首における貸借対照表の純資産合計額

当期の純資産額の増加

期末における貸借対照表の純資産合計額

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間の収入（キャッシュ・イン）と支出（キャッシュ・アウト）を捉え、キャッシュの流れを計算して表示する報告書です。

（単位：千円）

区分			令和4年度
	支出	原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 634,610
		人件費支出	▲ 1,469,344
		その他の業務支出	▲ 456,797
		科学研究費助成事業等預り金収支差額	▲ 7,220
		設立団体納付金の支払額	▲ 50
	収入	運営費交付金収入	1,620,304
		授業料等収入	859,695
		受託研究等収入	61,620
		補助金等収入	241,785
		寄附金収入	34,449
		預り金の純増減額	1,300
		その他の収入	60,851
業務活動によるキャッシュ・フロー合計 ①			311,981
	支出	定期預金の預入れによる支出	▲ 120,000
		有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	▲ 612,072
	収入	定期預金の払戻しによる収入	120,000
		利息及び配当金の受取額	49
投資活動によるキャッシュ・フロー合計 ②			▲ 612,023
	支出	ファイナンス・リース債務の返済による支出	▲ 6,092
			▲ 6,092
資金減少額 ④(①+②+③)			▲ 306,134
資金期首残高 ⑤			1,277,187
資金期末残高 ⑥(④+⑤)			971,054

資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	1,091,053,650 円
定期預金	▲ 120,000,000 円
資金期末残高	971,053,650 円

重要な非資金取引

工具器具備品	10,099,782 円
ソフトウェア	990,000 円
図書	393,077 円
合計	11,482,859 円

資金運用について

当法人は、資金運用については地方独立行政法人法第43条の規定に基づき、預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定しております。
資金運用に当たっては、現状では預金により運用しております。

ファイナンス・リース

工具器具備品　36,555千円
（令和3年から6年契約
年間 6,092千円の支出）

ソフトウェア　13,834千円
（令和4年から5年契約
年間 2,767千円の支出）

決算報告書

第7期（令和4年度）　　（単位：千円）

区分		予算額	決算額	差額（決算−予算）
収入	運営費交付金収入	1,620,304	1,620,304	−
	補助金収入	104,703	136,876	32,173
	学生等納付金収入	847,003	863,013	16,010
	財務収入	39	49	10
	雑収入	8,761	20,817	12,056
	受託研究収入	23,537	24,192	655
	共同研究収入	22,963	20,912	▲ 2,051
	受託事業収入	0	10,999	10,999
	寄附金収入	66,500	32,934	▲ 33,566
	目的積立金取崩額	351,186	351,186	0
	施設等設備費補助金収入	233,000	204,281	▲ 28,719
	収入合計①	3,277,996	3,285,563	7,567
支出	教育経費	477,844	447,000	▲ 30,844
	研究経費	82,037	89,595	7,558
	教育研究支援経費	97,377	125,719	28,342
	受託研究費	23,537	24,774	1,237
	共同研究費	22,963	20,295	▲ 2,668
	受託事業費	0	4,994	4,994
	寄附金	66,500	17,072	▲ 49,428
	人件費	1,484,022	1,460,157	▲ 23,865
	一般管理費	1,022,716	991,681	▲ 31,035
	予備費	1,000	0	▲ 1,000
	支出合計②	3,277,996	3,181,287	▲ 96,709
収入−支出　（①−②）		−	104,276	104,276

コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金の受入等により増加

外部資金獲得額の増加

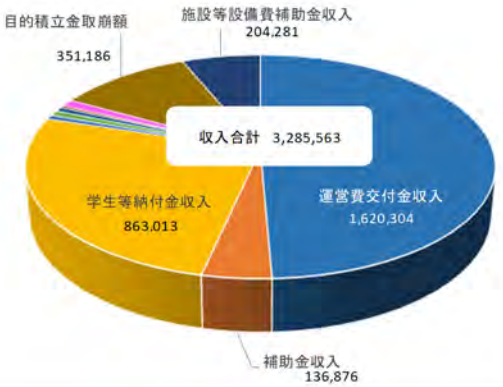
35周年記念事業寄付金収入が目標を下回ったこと等により減少

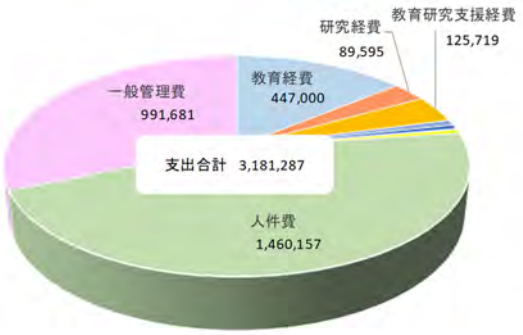
テニスコート・駐車場整備事業の支払時期が一部変更になったこと等により減少

外部資金獲得額の増加に伴い、研究費の支出も増加

35周年記念事業寄付金収入が目標を下回ったこと等により減少

テニスコート・駐車場整備事業の支払時期が一部変更になったこと等により減少





本学の収入には、①市等からの収入（運営費交付金など）、②自己収入（学生等納付金、補助金、受託研究費、寄附金など）、③その他の収入（財務収入など）があります。

中でも、自己収入は大学の経営努力によって大きく変動します。本学では、外部資金獲得に向けた取り組みなどを通して、さらなる自己収入の増加を目指しています。

令和4年度の主な取り組み

教育に関する取り組み

学生参加型 FD 研修会を開催しました

2 月 22 日（木）に、DX（デジタル・トランスフォーメーション）をテーマにした学生参加型 FD 研修会を開催し、学生 100 名、教職員 50 名が参加しました。

FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称です。

今回は、株式会社ひびき精機の専務取締役である松山功氏をお招きして、「日本のモノづくりにおける DX の重要性について」と題してご講演いただきました。

デジタルと技術とを追求する姿勢や、DX を活用した最先端の品質管理・生産管理などの紹介、未来のモノづくり等についてご講演いただき、また学生に対して「最新の技術に触れ、ワクワクする学びを得てほしい。」というメッセージをいただきました。

モノづくり DX の難しさと期待など、今後の本学の教育の向上に生かせる貴重な機会になりました。

キャンパスクリーンキャンペーンを実施

6 月 2 日（木）、3 日（金）の 2 日間、キャンパスクリーンキャンペーンを実施しました。

キャンパスクリーンキャンペーンとは、環境教育の一環として、大学構内及び周辺の清掃を行う毎年恒例の行事です。今年も「やまぐちの美しい里山・海づくり条例」に基づく県民一斉環境美化活動促進期間に合わせて開催しました。

2 日間で約 200 名以上の学生及び教職員が参加し、JR 雀田駅から大学までの通学路及び大学の周辺を中心に、ゴミ、タバコの吸い殻、空き缶、不法投棄されたもの等を回収し、回収後はゴミの分別を行いました。

今回のキャンパスクリーンキャンペーンを通じ、学生は喫煙マナーや環境配慮活動への意識を高めることができました。

山口県 GMP カレッジワークショップが開催されました

1 月 29 日（火）、本学を会場に山口県 GMP カレッジのワークショップが開催され、本学薬学部の 3 年生を対象に、帝人ファーマ株式会社医薬岩国製造所の皆さまにご講演いただきました。

山口県 GMP カレッジとは、山口県、山口県製薬工業会及び本学の産学公連携により医薬品製造所の GMP（Good Manufacturing Practice）に係る人材育成を目的とした事業です。

はじめに、同社岩国製造所長からのビデオメッセージで「本授業を通じて医薬品産業に興味を持っていただき、ぜひ就職してほしい。」との熱いエールを頂きました。

その後、同社の医薬生産技術部の研究員及び医薬品製造管理者の薬剤師から、事業の全体概要、繊維工場や医薬・医療機器の工場、研究所を擁する複合事業所、医薬品の研究開発から生産まで迅速に進められる体制等について、写真や図表を交えてご説明いただきました。

文科省の事業に本学から２件選定されました

山陽小野田市立山口東京理科大学の薬学部では、文部科学省大学改革推進等補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に、２件選定されました。

（メニュー１：遠隔医療等に関する教育設備の導入、メニュー２Ａ：実習等に資するシミュレータ等のＤＸ設備整備）

本事業は、オンラインによる遠隔医療など新たな医療に対応出来る人材を迅速に輩出することを目指すとともに、デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の手法を活用することにより、従来の実習では獲得できなかった能力を修得させる教育プランを構築し、即戦力となり得る実践的な知識を身に付けた医療人材養成を行うことを目的としています。

本学では、「ローカル５ＧとＡＩ感情解析ソリューションを用いた薬学オンライン服薬指導実習の高速化と深化」、及び「メガネ型ウェアブル端末を用いた臨床薬学事前実務実習の技能習得の効率化と深化」を実施することにより、学生が学習時間や場所の制限なく、効果的に繰り返し学習できるコンテンツの継続的な活用と、ウィズコロナ時代に適した薬剤師の養成を推進します。

東京パラ自転車競技金メダリストで薬剤師の杉浦選手による特別授業を開催

4 月 20 日（水）、薬学部の授業「学術と地域文化１」において、東京パラリンピック自転車競技・女子個人ロード種目の金メダリストで薬剤師の資格を持つ杉浦佳子選手による特別授業「パラリンピアンと薬剤師」を開催しました。今回の特別授業は、杉浦選手が山陽小野田市で事前キャンプを行うなど、交流を重ねてきた縁で開催が実現しました。

杉浦選手は、実家が薬局を営んでいたことから薬剤師を志し、出産のため一度は薬剤師の道を断念するも「人の役に立ちたい」という思いから、再度薬学部へ入学。育児をしながら勉学に取り組まれ薬剤師の資格を取得された経験を語られました。卒業後は、調剤薬局に勤務し、薬剤師として活躍されていましたが、2016 年に趣味の自転車ロードレース中に転倒し、左脳を損傷すると高次機能障害を発症。そのような苦しい時にパラサイクリストとの出会いなどをきっかけにパラアスリートに転向、パラリンピックに向けた食事や質の良い睡眠のとり方、トレーニングなどに薬剤師としての知識が役立っているとお話しされました。

杉浦選手は、応援してくれる人から「感動をありがとう」と声をかけてもらうことが支えになっていると話したうえで、薬剤師を志す薬学部の学生に向けて「患者さんからありがとうと言われる薬剤師になってほしい」とエールを送ってくださいました。

多目的文化施設竣工記念セレモニーを挙行

9 月 3 日（土）、ご来賓、寄付者、関係者等多くの方にご参加いただき、本学多目的文化施設施工記念セレモニーを行いました。

多目的文化施設は、学生の課外活動の拠点となる部室、トレーニングルーム、研究室や地域の皆様との交流の場となる多目的会議室などを備えており、多様なニーズに応えられる施設として７月末に竣工いたしました。

セレモニーでは、藤田剛二山陽小野田市長をはじめ、高松秀樹山陽小野田市議会議長、藤井達男本学教育後援会会長からご祝辞をいただきまして、関係者でテープカットを行い、その後内覧会を行いました。

本学教員の研究成果を活用した研究開発課題が中小企業庁の事業に採択

中小企業庁の「令和４年度 成長型中小企業等研究開発支援事業（通常枠）」に、本学工学部機械工学科の結城和久教授の研究成果を活用した研究開発課題が採択されました。

本事業は、中小企業者等による精密加工、表面処理、立体造形等のものづくり基盤技術及びサービスの高度化を図ることを目的として、中小企業者等が大学・公設試験研究機関等と連携して研究開発や試作品開発、さらにはその成果の販路開拓にかかる取り組みを支援するものです。

研究開発計画名：脱炭素を実現する熱ソリューションビジネスエコシステムの共創

「令和４年度研究成果発表会」を開催

３月 13 日（月）、活気のある研究風土の醸成を図ることを目的に「令和４年度研究成果発表会」を開催しました。

地域課題に関連した研究や若手研究者による研究など、様々な分野から計 31 テーマの発表がありました。

教員や学生を中心に 152 名の参加があり、活発な質疑応答、意見交換が行われました。

開会、閉会時には、武田薬学部長、永田工学部長から、学生の研究意欲の向上、学内共同研究の推進等、本学の研究力強化に向けた激励のお言葉を頂きました。

本学学生が「第９回トマトロボット競技会」に出場しました

12 月３日（土）・４日（日）に北九州学術研究都市で開催された「第９回トマトロボット競技会」に、機械工学科：池田研究室所属の学生チームが自律型のトマト収穫ロボットを製作して出場しました。

【チームメンバー】

長野 義辰 さん（学部４年生：池田研究室＆ロボット・メカトロニクス部所属）

長石 一輝 さん（学部４年生：池田研究室＆ロボット・メカトロニクス部所属）

森田 一麟 さん（大学院１年生：アドバイザー）

池田 毅 准教授（指導教員：アドバイザー）

11 月 14 日（月）のビデオ審査による予選を通過して臨んだ決勝戦。結果は 10 チーム中６位となりました。

本学教員が企業と協働し、毛髪のダメージに係る発見をしました

株式会社ミルボン、パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社は、本学工学部応用化学科の 佐伯 政俊 講師と協働し、根元から毛先にかけてのミクロ構造の変化を解明し、毛先で顕著になるダメージ現象が根元付近から始まっていることを発見しました。

この研究成果は、1 月 31 日（火）に本学を会場として開催された「第 277 回コロキウム」にて報告されました。

「第 16 回日本原子力学会中国四国支部研究発表会優秀発表賞」を受賞

本学学生が第 16 回日本原子力学会中国・四国支部研究発表会において「優秀発表賞」を受賞しました。

同賞は、核融合発電炉の開発に貢献し得る優秀な研究成果として授与されます。

■受賞者：大学院工学研究科工学専攻修士課程
2 年 野口 慶伍 さん

■講演論文：磁場は本当に水の特性を変えるのか？

本学教員が「産業応用工学会賞」を受賞

本学工学部機械工学科の 永田寅臣 教授が「産業応用工学会全国大会 2022」において「産業応用工学会賞」を受賞しました。

同賞は、産業応用に関する優秀な論文を発表した者に対して授与されるものです。永田教授と共英製鋼株式会社との共同研究により発表した論文が高く評価され受賞が決定しました。

論文タイトル：動画解析と 2D CNN を用いた金属の火花試の自動評価システム

「薬学部研究シーズ発表会」を開催

2 月 22 日（水）、本学を会場に「薬学部研究シーズ発表会」を開催しました。

山口県内の医療関連分野における産学公連携（研究開発・事業化）の促進等を目的に開催し、多くの方にご来場いただきました。

研究シーズの発表では、研究内容を深堀りする様々な質問があり、大変有意義な時間になりました。

また、発表終了後の名刺交換会、施設見学ツアー（研究機器、薬用植物園、研究室）にも多くの参加がありました。

開催に当たっては、山口県、山口県産業技術センター及び関係者の皆様に多くのご協力をいただきました。

大学開放デー開催

9 月 25 日（日）に大学開放デーを開催しました。大学教育の現場や科学技術等に触れられる機会を提供し、地域の方に大学を身近に感じてもらうことを目的に開催しました。

各会場では、市民フォーラム・科学作品展示・科学実験体験（高校・企業・大学）や親子ドローン教室・競技かるた体験・ダイバーシティ関連企画など様々なイベントが行われました。科学作品展示では、山陽小野田市からの表彰に加え、本学から理事長賞・学長賞の授与もありました。

当日は、山陽小野田市内外から約 800 名の方にご来場いただき、大変盛況なうちに終了しました。

夏休みジュニア科学教室を開催

7 月 29 日（金）、本学で夏休みジュニア科学教室「くすりをデザインして作ってみよう！」を開催し、本学薬学部の堀口道子講師が講師を務めました。

参加した山口県内の小学 5 年生～中学 2 年生が、くすりのデザインについて学び、実際に水剤・カプセル剤、ぬり薬をデザインして作りました。さらに、薬局で使う薬の袋やお薬手帳を使って、薬剤師の体験をしました。

くすりのデザインを実際に経験した参加者からは、「将来、薬剤師になりたい。」、「くすりのデザインの工夫はとても面白い。」などの感想がありました。

魅力ある大学づくりに向けて

令和 4 年度学生表彰式にて

①志願者情報

令和 4 年度の入学者選抜試験において、入学定員工学部 260 人に対して 1,649 人、薬学部 120 人に対して 1,108 人の志願者がありました。

②学生表彰

研究および学業、課外活動、社会活動等において優れた評価を受け、本学の栄誉を高めた個人または団体を表彰するもので、今年度は個人 12 名、団体 7 つが表彰されました。

③就職率

令和 4 年度の学部卒業者 99%、修士課程修了者 100%という高い就職率を達成することが出来ました。

山口県バスロケーションシステム実証実験に協力

山口県では、多様化する地域交通の課題に対応していくため、「新たな地域交通モデル形成に関する取組方針」を策定し、課題解決に資する新たな取組モデルの構築を進めることとしています。

令和４年度は、ローコストでバス事業者が自らシステムを維持していくことが可能な取組モデルを構築するため、事業者が整備したオープンデータを活用した簡素な仕組みでのバスロケーションシステムの導入実証事業を実施しており、本学工学部電気工学科４年の今村有亜さんも実証事業に使用する車載器の組立に協力しました。

本学は、バスの時刻表が表示されるデジタルサイネージ（表示器）の設置、学生へのアンケート調査実施などの協力を行います。

本学学生が図書館フェスティバルに参加

11 月 27 日（日）、山陽小野田市立中央図書館において「第 9 回 図書館フェスティバル」が開催され、本学学生がボランティアとして参加しました。

当フェスでは、リサイクルブックやマルシェ、笑いヨガ、チャリティーオークションなど、地域の方々が参加して楽しめるイベントが多く催されました。少し汗ばむような陽気のなか、多くの方がご来場くださり、会場は笑顔であふれました。

本学からは、自動車部によるフォーミュラカーの展示、フィルハーモニー交響楽団によるコンサートの併せて２団体が参加しました。

また、個人として、12 名の学生ボランティアが様々なイベントのお手伝いをしました。どのブース・イベントも大盛況で、慌ただしくも充実した一日となりました。。

「スマイル・ハロウィンパーティー」に参加

10 月 30（日）、おのだサンパークにて「スマイル・ハロウィンパーティー」が開催されました。
本学からは総勢 120 名を超す学生がステージイベント、ブース出展、ボランティア等に参加してパーティーを盛り上げました。

当日は「放送部」の"たんれな"さんがサブ MC としてステージイベントを進行しました。

ステージでは、「ダンス部」及び「女子ダンス部」がダイナミックなダンスを、「居合道部」が華麗な演武を、「フィルハーモニー交響楽団」が子供から大人まで楽しめるアニメソング等を披露し、大いに観客を魅了していました。

魅力発信ブースでは「Biofizz」がハロウィンゲームコーナーを担当し、小さなお子様を中心に多くの市民の方に笑顔を提供していました。

また、「写真部」は山陽小野田市内の様々な風景を撮影した写真展示を行い、市の魅力発信・向上に大きく貢献していました。

屋外ステージでは、「軽音部」及び「JAZZ 研究会」のバンド演奏が行われ、音楽で来場者をもてなしました。

このほかにも、仮装コンテストでは「学友会」が審査員の大役を担うとともに、多くの学生がボランティアスタッフとして参加し、会場誘導などの運営サポートを行いました。

参加した各部の学生は、当日のパーティー開催前から、商工会議所青年部、青年会議所、行政等で構成するスマイルハロウィン部会に、イベントを盛り上げるために積極的に参加していました。